

【一関藩田村家セミナー】

和歌が結ぶ京・江戸・一関

一関藩の初代藩主田村建顕は、能、絵画、書、和歌、箏などの文芸にも通じた、好学の藩主として尊敬されています。将軍徳川綱吉による文治政治のもと、外様大名の分家大名でありながら奥詰となり譜代列に加えられるという異例の出世を遂げ、幕府の要職である奏者番を長く務めています。

本セミナーでは、国文学研究資料館の共同研究による一関市博物館で所蔵する田村家文書、各地の関連資料の調査研究の成果を3つの講演で紹介します。

開催日 2026年 10月11日(日) 13:30～16:00

場所 一関市博物館 エントランスホール
(住所 〒021-0101 岩手県一関市巖美町字沖野々215-1)

開会挨拶 一関市博物館長 田村家57代当主、一関藩第17代当主 国文学研究資料館長
誉田 慶信 田村 任顯 渡部 泰明

研究報告

講師

一関市博物館主任学芸員
そう ま み き こ

相馬美貴子 【演題】 初代一関藩主田村建顕の生涯

講師

京都女子大学教授
おお たに しゅんた

大谷 俊太 【演題】 建顕と和歌
一師 岡本宗好のことなどー

講師

同志社大学准教授
おお やま かず や

大山 和哉 【演題】 霊元天皇が見た建顕の和歌

定員 100名

受講料 無料

申込方法 事前申込制 先着順
以下の電話番号からお申込みください。

0191-29-3180 一関市博物館

※お申込みの際にお名前と電話番号と居住地(〇〇市)をお伺いします。

受付開始

9月11日(金) ※定員になり次第締切とします。

問い合わせ先

主催 国文学研究資料館

透かしは一関市博物館所蔵「御年譜俗稿」

一関藩田村家セミナー ―和歌が結ぶ京・江戸・一関―

開 会 挨 拶

一関市博物館長

誉田 慶信

田村家57代当主、
一関藩第17代当主

田村 任顯

国文学研究資料館長

渡部 泰明

研 究 報 告

講 師

一関市博物館主任学芸員

相馬美貴子

【演題】「初代一関藩主田村建頭いちの せき たけ あきの生涯」

初代一関藩主田村建頭いちの せき たけ あきは、外様大名仙台藩の分家にして3万石の小藩の当主でありながら、幕閣の要職を務めるなど異例の出世を遂げ、能や絵画などの文芸にも通じた好学の藩主として尊敬されています。とりわけ和歌を通じた天皇や公家との交流は、和歌に対する深い造詣と豊かな人脈を育み、彼の栄達を支えています。建頭の教養の形成を中心としてその生涯を概観します。

講 師

京都女子大学教授

大谷 俊太

【演題】「建頭たけ あきと和歌 一師 岡本宗好おか もと むね よしのことなど一」

建頭たけ あきはなぜ多くの和歌を詠み、遠く京都の公家に入門し、熱心に歌学を学び、たくさんの歌書を所蔵したのでしょうか。最初の和歌の師である岡本宗好おか もと むね よしのこと、京都の公家と江戸の建頭たけ あきとの間を往き来した吉益彦太郎よしまつ ひこ たろうのこと、建頭の詠んだ和歌などを採り上げ、建頭の和歌との関わり方について考えます。

講 師

同志社大学准教授

大山 和哉

【演題】「靈元天皇れい げん てん のうが見た建頭たけ あきの和歌」

建頭たけ あきは、中院家なかの いん け、冷泉家れい ぜい け、日野家ひ の けといった公家から和歌の手ほどきを受け、その和歌はついに靈元天皇れい げん てん のうの元にも届きます。一関市博物館所蔵の田村家文書には、靈元天皇が添削や合点あてん（合格の印）を付けた資料が残されています。建頭たけ あきは、どんな和歌を詠んだのか。靈元天皇は、その歌から何を感じたのか。実際の資料をもとに、当時の歌道の頂点に君臨した靈元天皇と建頭の交流の様子を紹介します。



場 所

一関市博物館エントランスホール
〒021-0101
岩手県一関市厳美町字沖野々215-1

問 い 合 わ せ 先

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

東京都立川市緑町10-3
HP: <http://www.nijl.ac.jp/>
E-mail: bunko.seminar@nijl.ac.jp



一関市博物館所蔵「田村建頭印」芸叢